

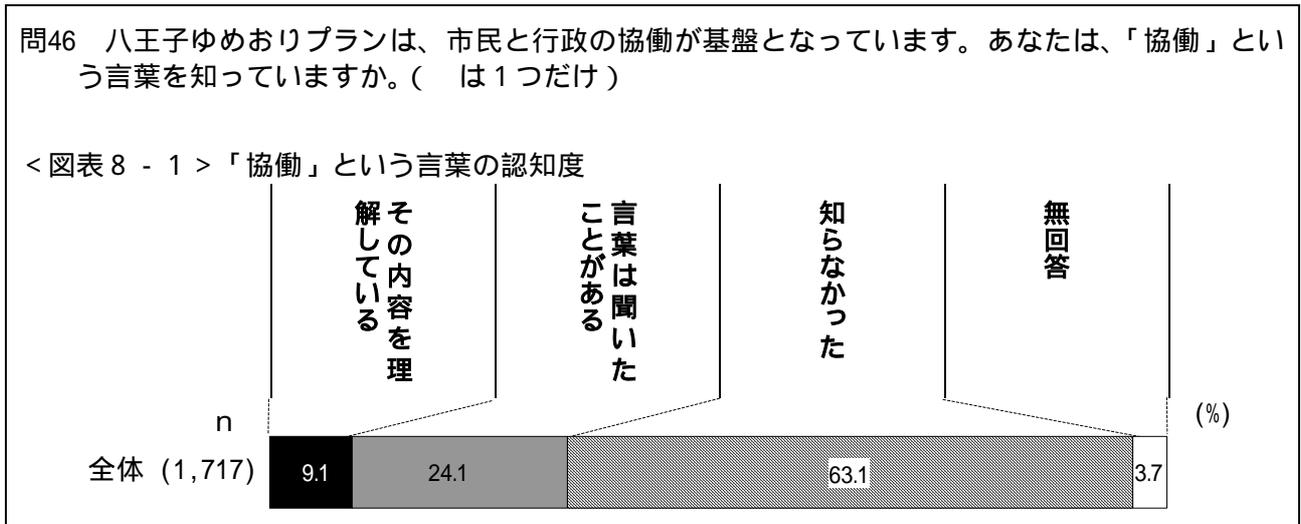
第 2 章

8 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の達成度

8 - 1 「協働」という言葉の認知度

施策No - 01 市民自治の推進：市民協働をすすめているまちであると感じる市民の割合

《認知度》は3人に1人。一方、「知らなかった」が6割台半ばに近く多数

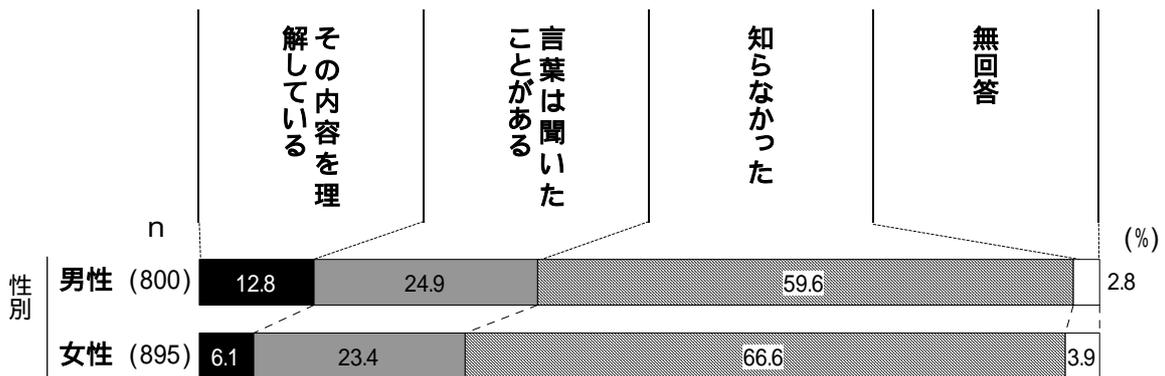


「協働」という言葉の認知度としては、「その内容を理解している」(9.1%)は1割を切り、「言葉は聞いたことがある」(24.1%)がほぼ4人に1人である。これらを合算すると、《認知度》(33.2%)は3人に1人となる。逆に、「知らなかった」(63.1%)は6割台半ばに近く多い。(図表8 - 1)

【性別】

「その内容を理解している」は男性の方が女性よりも7ポイント高く、男性は「言葉は聞いたことがある」でもわずかに高いため、《認知度》は8ポイント男性が上回る。逆に、「知らなかった」は女性の方が7ポイント高率である。(図表8 - 2)

<図表 8 - 2> 性別



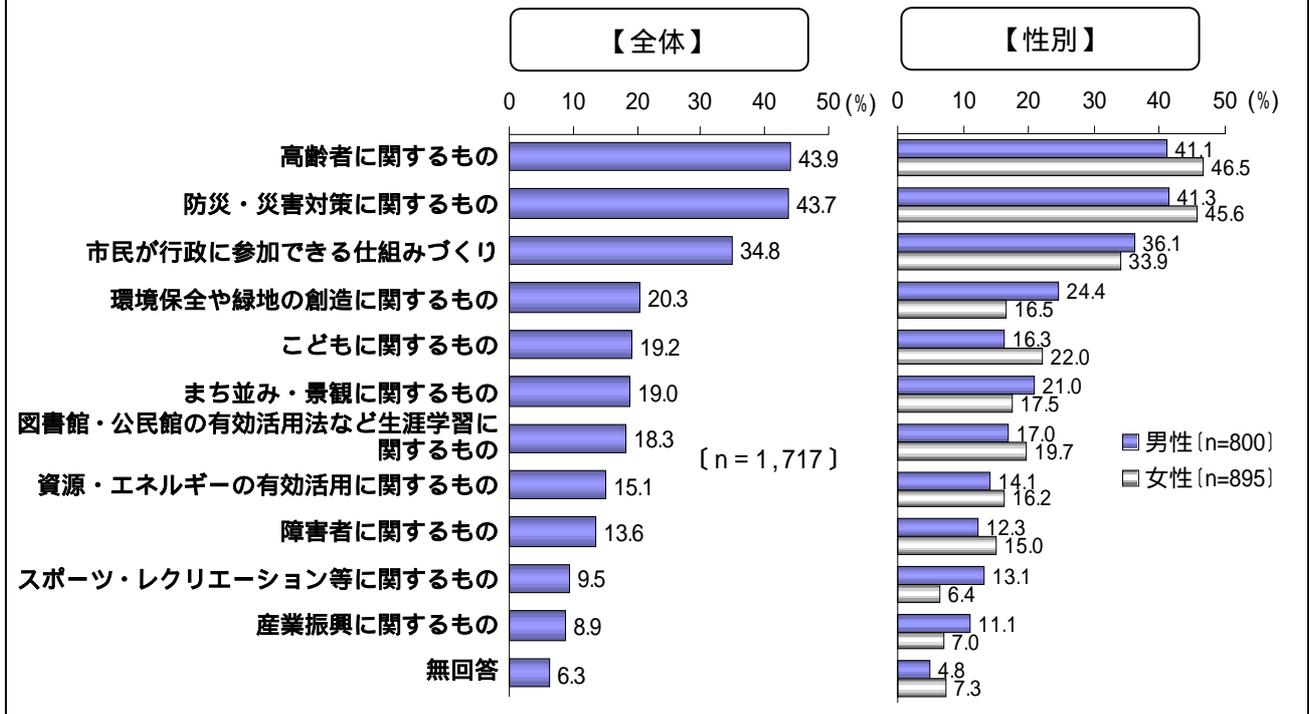
8 - 2 「協働」が必要だと感じる分野

「高齢者に関するもの」と「防災・災害対策に関するもの」が4割台半ばに近く上位2項目

問47 「協働」とは、「ともに手を携えてものごとをすすめていく」という意味で、「参加」にくらべて対等かつ主体性をもった語感で使われることが多い言葉です。

あなたが、今後、特に市が市民とともに協働していくことが必要だと感じる分野はどれですか。
(は3つまで)

<図表 8 - 3> 「協働」が必要だと感じる分野（複数回答）



「協働」が必要だと感じる分野としては、「高齢者に関するもの」(43.9%)と「防災・災害対策に関するもの」(43.7%)が4割台半ばに近くほぼ並ぶ。続く、「市民が行政に参加できる仕組みづくり」(34.8%)は3割台半ばで、「環境保全や緑地の創造に関するもの」(20.3%)と「こどもに関するもの」(19.2%)、「まち並み・景観に関するもの」(19.0%)、「図書館・公民館の有効活用法など生涯学習に関するもの」(18.3%)の4項目が2割前後である。

【性別】

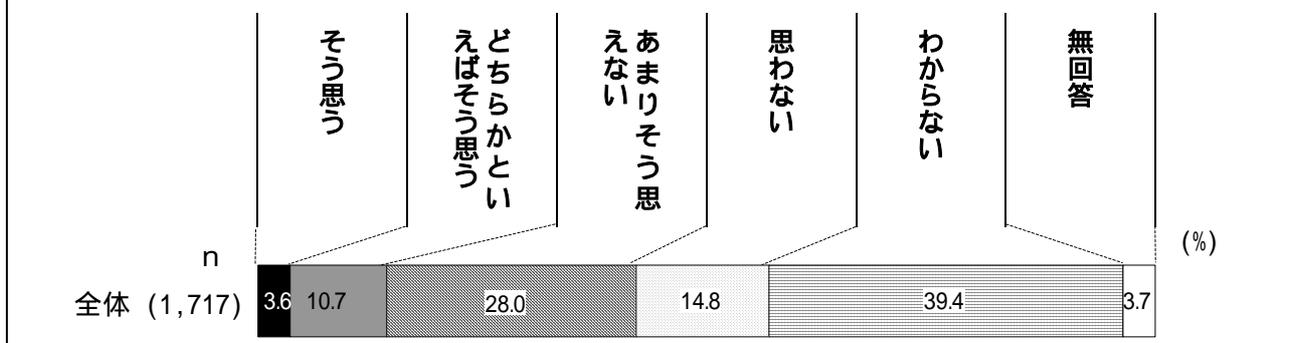
女性の方が男性よりも高い項目が多く、中でも、「こどもに関するもの」は6ポイント、「高齢者に関するもの」は5ポイントの差がみられる。逆に、男性が上回るのは、「環境保全や緑地の創造に関するもの」で8ポイント、「スポーツ・レクリエーション等に関するもの」で7ポイント差などとなっている。(図表 8 - 3)

8 - 3 市の「協働」推進状況

《そう思う》は少数で、4割を超える《そう思わない》が上回る

問48 あなたは、八王子市が市民協働を進めているまちであると思いますか。(は1つだけ)

<図表8 - 4>市の「協働」推進状況



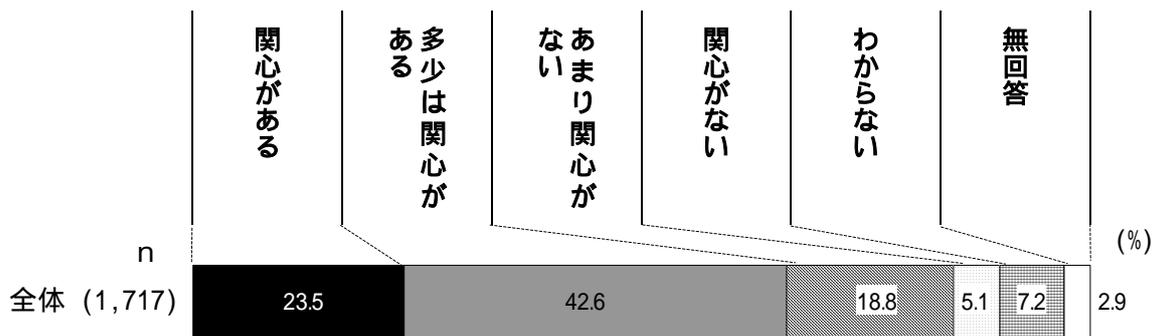
本市が市民協働を進めているまちであるかと聞いたところ、「そう思う」(3.6%)と「どちらかといえはそう思う」(10.7%)を合算した、《そう思う》(14.3%)は少数派である。逆に、「あまりそう思えない」(28.0%)と「思わない」(14.8%)を合算した、《そう思わない》(42.8%)は4割を超える。なお、「わからない」(39.4%)との回答が4割弱ある。(図表8 - 4)

施策No - 04 説明責任の着実な実行：市政情報が容易に入手できると感じる市民の割合

《関心がある》が3人に2人で、《関心がない》を上回る

問49 あなたは、市政情報に対して関心がありますか。(は1つだけ)

<図表8 - 5> 市政情報への関心度

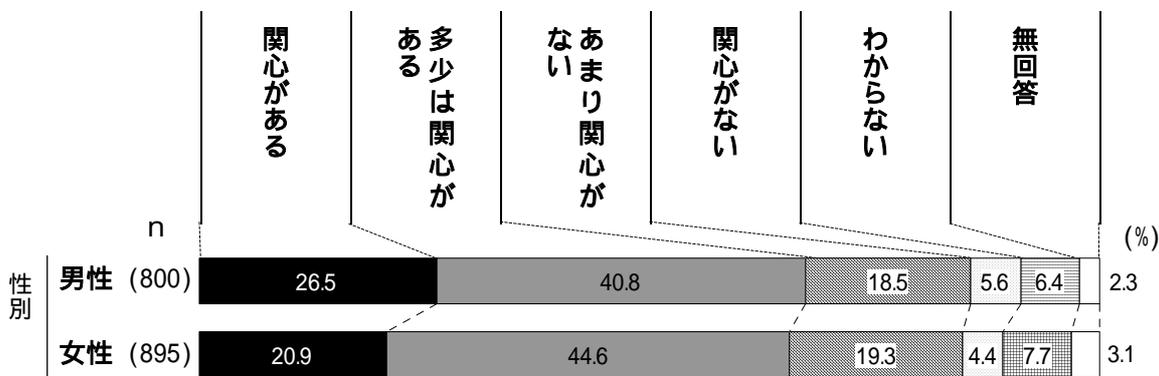


市政情報に「関心がある」(23.5%)はほぼ4人に1人で、「多少は関心がある」(42.6%)が4割を超え高くなっている。これらを合算すると、《関心がある》(66.1%)は3人に2人と多い。逆に、「あまり関心がない」(18.8%)と「関心がない」(5.1%)を合算した、《関心がない》(23.9%)はほぼ4人に1人である。(図表8 - 5)

【性別】

最も差が開いているのは、「関心がある」で男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。(図表8 - 6)

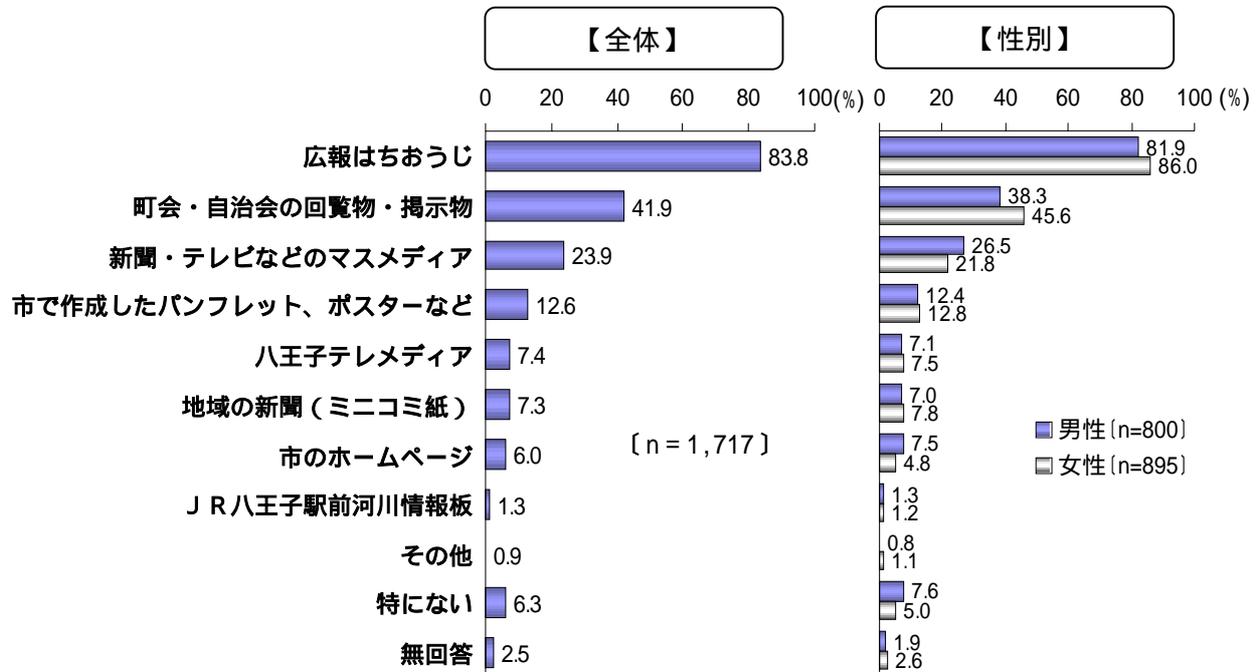
<図表8 - 6> 性別



「広報はちおうじ」が8割台半ばに近く突出

問50 あなたは、市政の情報を主にどこから得ていますか。(は3つまで)

<図表8 - 7> 市政情報の入手媒体 (複数回答)



市政情報の入手媒体としては、「広報はちおうじ」(83.8%)が8割台半ばに近く突出している。続く、「町会・自治会の回覧物・掲示物」(41.9%)は4割強、「新聞・テレビなどのマスメディア」(23.9%)はほぼ4人に1人である。

【性別】

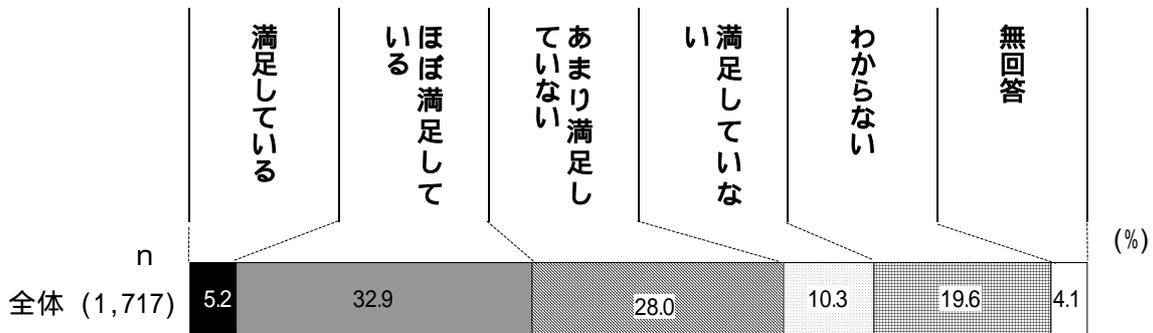
「町会・自治会の回覧物・掲示物」は女性の方が男性よりも7ポイント高い。逆に、男性は「新聞・テレビなどのマスメディア」で5ポイント高くなっている。(図表8 - 7)

8 - 6 現在の情報入手方法の満足度

《満足している》は約4割いるものの、《満足していない》もほぼ同率で並ぶ

問51 あなたは、現在の情報入手方法に満足していますか。(は1つだけ)

<図表8-8> 現在の情報入手方法の満足度

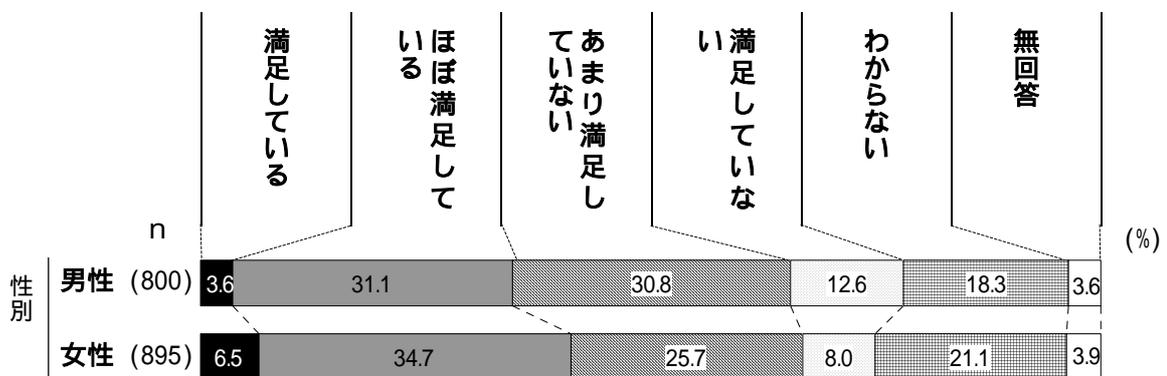


現在の情報入手方法に「満足している」(5.2%)は少数ながら、「ほぼ満足している」(32.9%)はほぼ3人に1人で、これらを合算した《満足している》(38.1%)は約4割である。逆に、「あまり満足していない」(28.0%)と「満足していない」(10.3%)を合算した、《満足していない》(38.3%)もほぼ同率で、満足層と不満足層が拮抗している。また、「わからない」(19.6%)との回答が2割弱あり、比較的多い。(図表8-8)

【性別】

「満足している」と「ほぼ満足している」は女性の方が男性よりも若干高くなっている。一方、「あまり満足していない」と「満足していない」は、男性が5ポイント高く、そのため、《満足していない》では、10ポイントの差がついている。(図表8-9)

<図表8-9> 性別

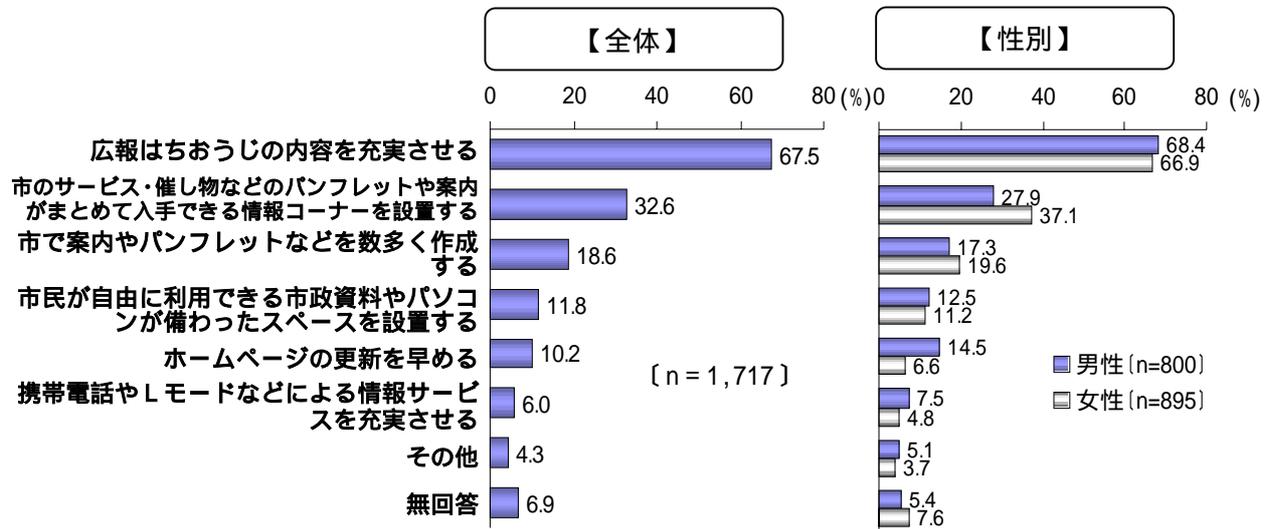


8 - 7 市政情報の入手にあたり効果的な改善点

「広報はちおうじの内容を充実させる」が6割台半ばを超え突出

問52 あなたは、市政の情報の入手にあたり、どのような点を改善するのが効果的だと思いますか。
(は2つまで)

<図表8 - 10> 市政情報の入手にあたり効果的な改善点(複数回答)



市政情報の入手にあたり効果的な改善点としては、「広報はちおうじの内容を充実させる」(67.5%)が6割台半ばを超え突出する。続く、「市のサービス・催し物などのパンフレットや案内がまとめて入手できる情報コーナーを設置する」(32.6%)はほぼ3人に1人で、「市で案内やパンフレットなどを数多く作成する」(18.6%)が約2割となっている。

【性別】

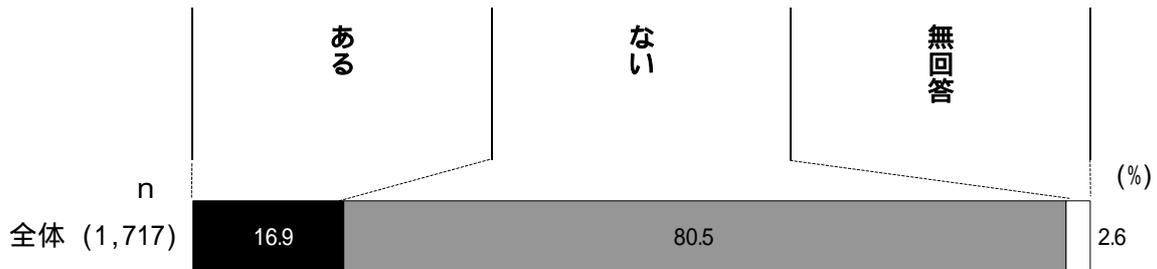
「市のサービス・催し物などのパンフレットや案内がまとめて入手できる情報コーナーを設置する」は女性の方が男性よりも9ポイント高く、逆に、「ホームページの更新を早める」は男性の方が8ポイント高い。(図表8 - 10)

施策No - 11 地域での支え合い:地域の中でボランティア活動や行事に参加したことがある市民の割合

「ある」は1割台半ばを超えるにとどまり、「ない」が8割を超え多数

問53 あなたは、この1年間にボランティア活動に参加したことがありますか。(は1つだけ)

<図表8 - 11> 1年間でのボランティア活動への参加の有無

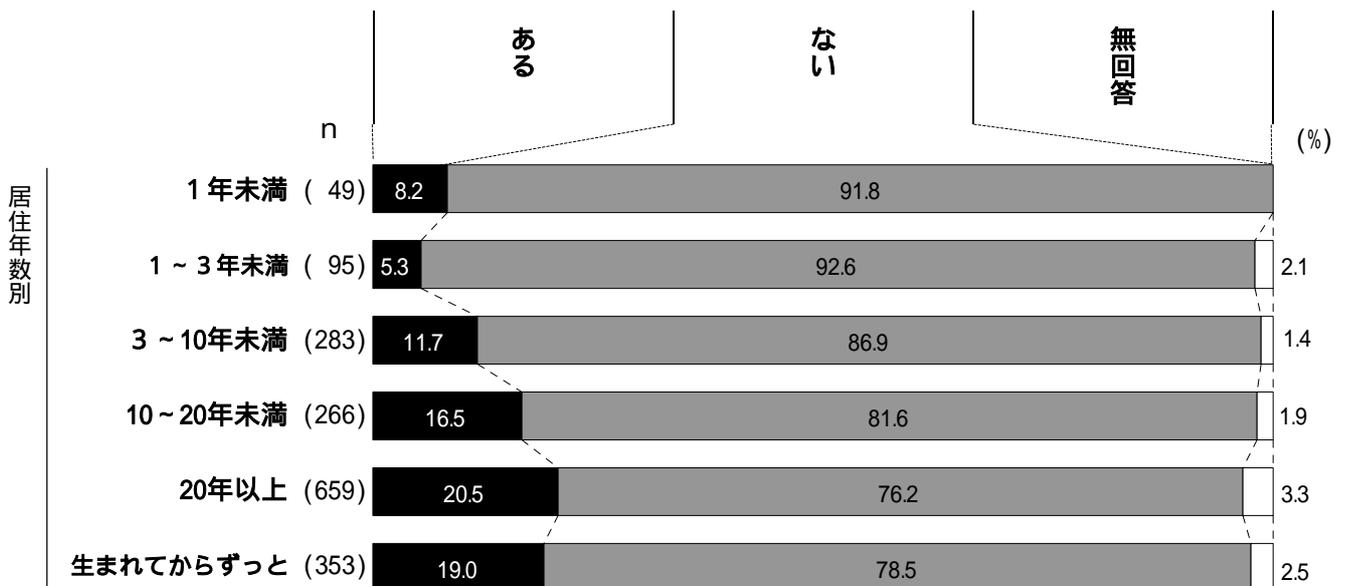


この1年間にボランティア活動に参加したことが「ある」(16.9%)は1割台半ばを超えるにとどまり、「ない」(80.5%)が8割を超え大きく上回る。(図表8 - 11)

【居住年数別】

「ある」は居住年数が長くなるほど漸増する傾向にあり、20年以上と生まれてからずっとで2割前後に達する。(図表8 - 12)

<図表8 - 12> 居住年数別

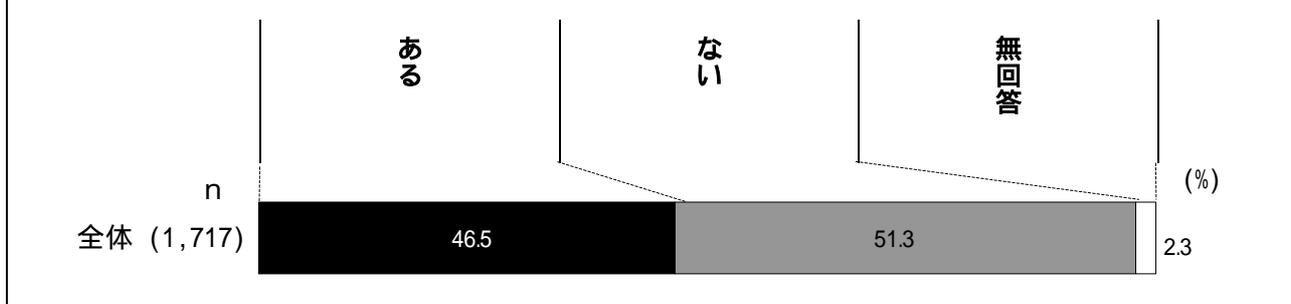


8 - 9 1年間での盆踊りや清掃等地域行事への参加の有無

「ある」は4割台半ばを超えるが、「ない」の方が多い

問54 あなたは、この1年間に盆踊りや清掃など地域の行事に参加したことがありますか。
(は1つだけ)

<図表8 - 13> 1年間での盆踊りや清掃等地域行事への参加の有無

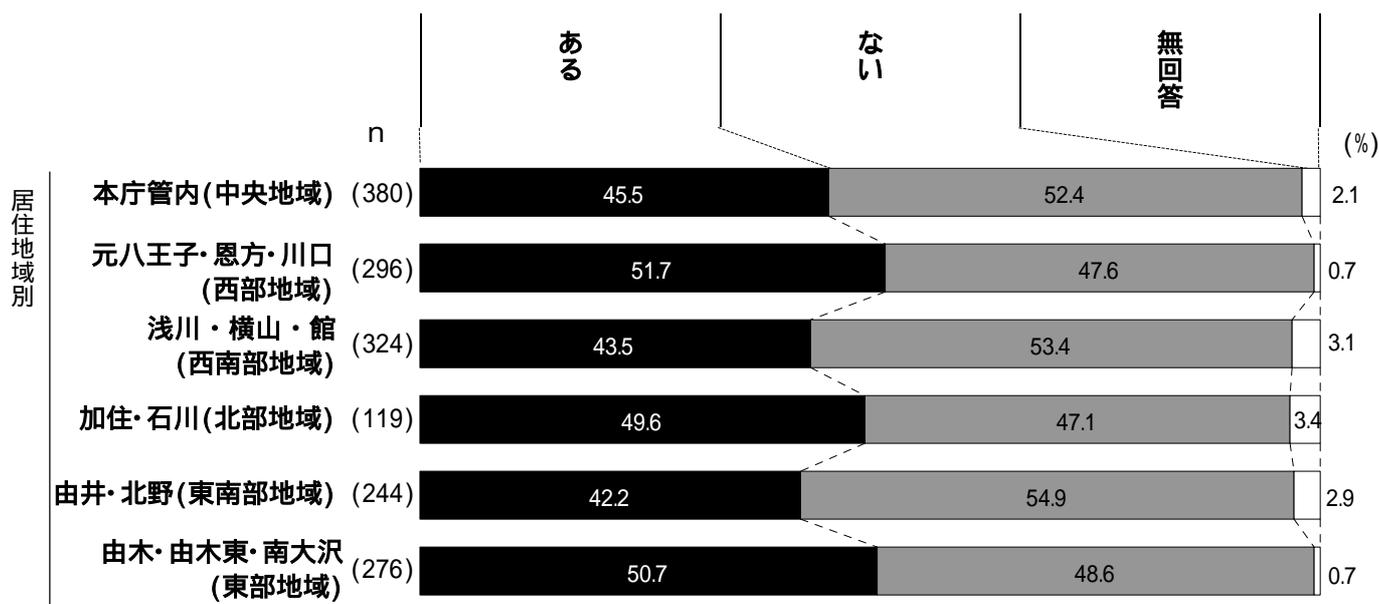


この1年間で盆踊りや清掃などの地域の行事に参加したことが「ある」(46.5%)は4割台半ばを超えるが、「ない」(51.3%)が半数を超えわずかに上回る。(図表8 - 13)

【居住地域別】

「ある」は、元八王子・恩方・川口(西部地域)と由木・由木東・南大沢(東部地域)が半数を超え高く、これに加住・石川(北部地域)が続く。これ以外の地域では、「ない」が半数を超えている。(図表8 - 14)

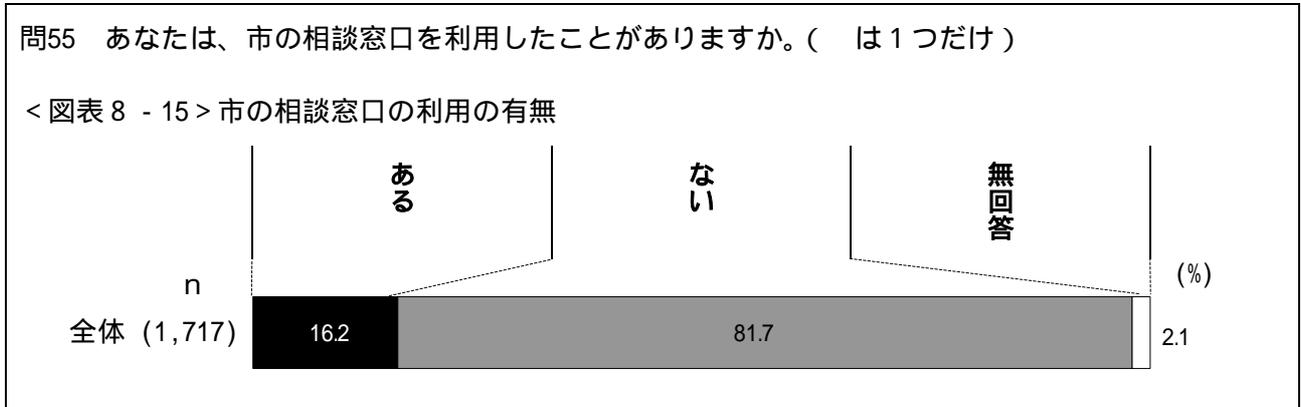
<図表8 - 14> 居住地域別



8 - 10 市の相談窓口の利用の有無

施策No - 12 暮らしの相談・支援：相談の機会が充実していると感じる市民の割合

「ある」は1割台半ばを超えるにとどまり、「ない」が8割を超え多数

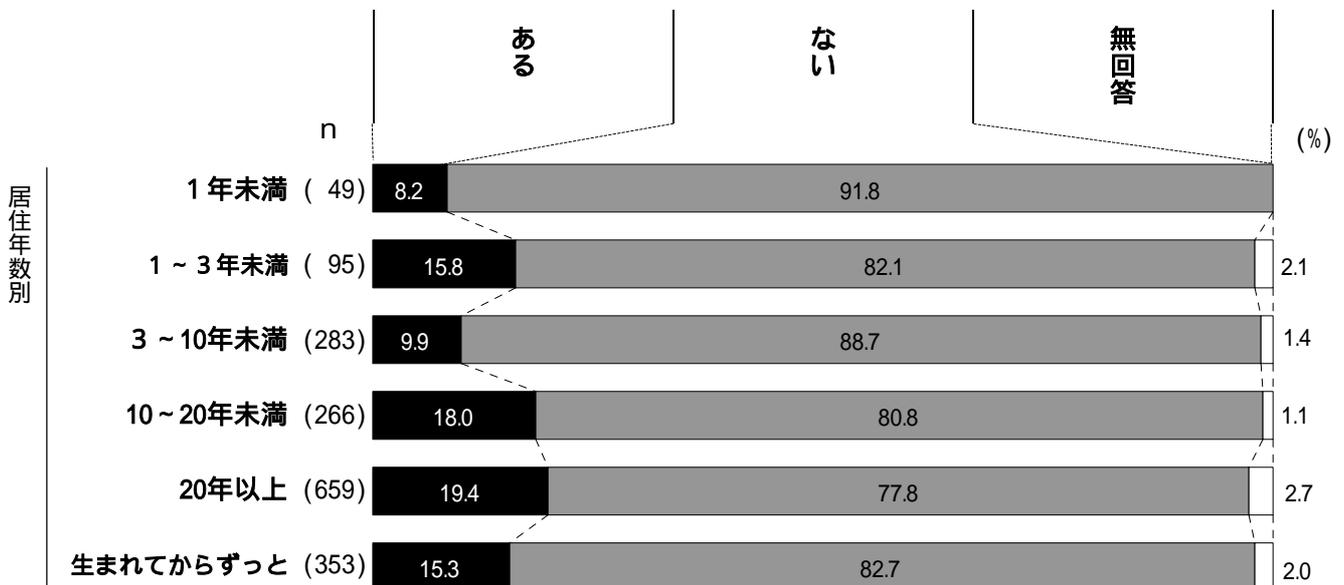


市の相談窓口を利用したことが「ある」(16.2%)は1割台半ばを超えるにとどまり、「ない」(81.7%)が8割を超え大きく上回る。(図表8 - 15)

【居住年数別】

「ある」は1年未満と3～10年未満が1割を切り低く、10～20年未満と20年以上が約2割で高くなっている。(図表8 - 16)

<図表8 - 16> 居住年数別



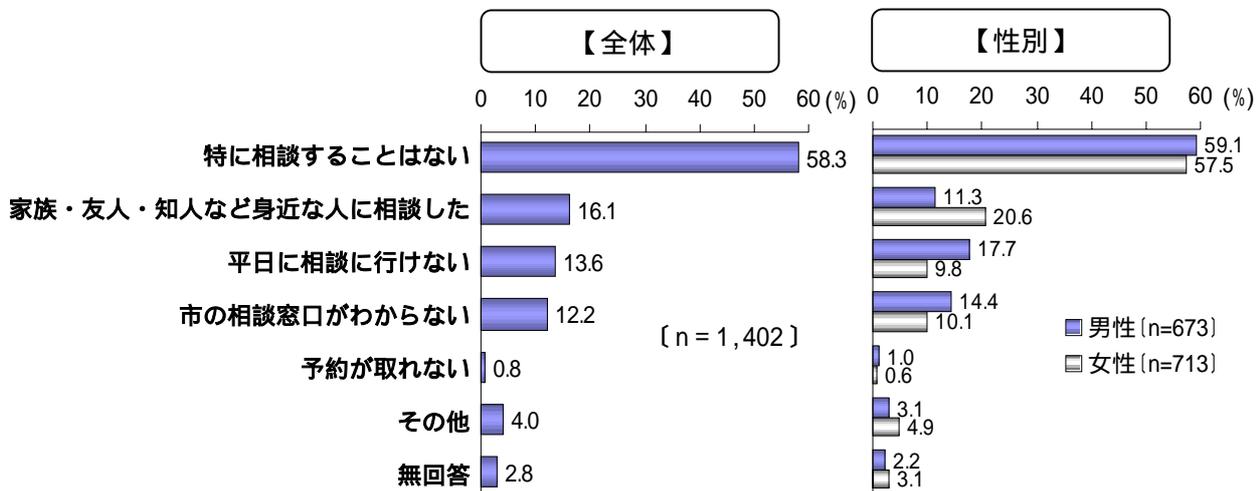
8 - 11 市の相談窓口を利用しない理由

「特に相談することはない」が約6割で突出

(問55で、「2 ない」とお答えの方に)

問55 - 1 市の相談窓口を利用しないのはなぜですか。(は2つまで)

<図表8 - 17> 市の相談窓口を利用しない理由(複数回答)



問55で、「ない」と回答した人にその理由を聞いた。その結果、「特に相談することはない」(58.3%)が約6割で突出する。以下、「家族・友人・知人など身近な人に相談した」(16.1%)、「平日に相談に行けない」(13.6%)、「市の相談窓口がわからない」(12.2%)と続く。

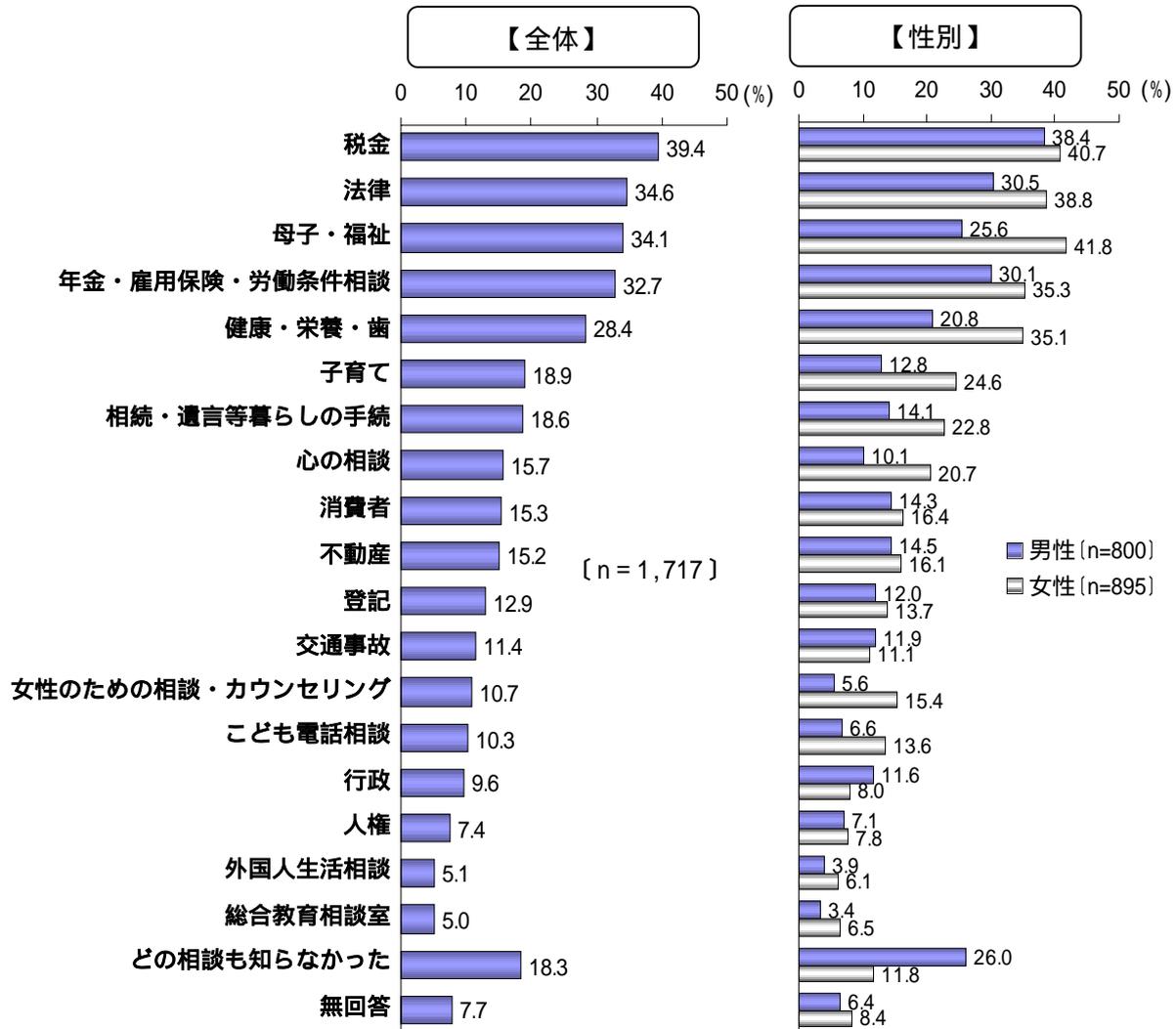
【性別】

「家族・友人・知人など身近な人に相談した」は女性の方が男性よりも9ポイント高く、逆に、「平日に相談に行けない」は男性が8ポイント上回る。(図表8 - 17)

「税金」が4割弱でトップ。続くのは、「法律」と「母子・福祉」など

問56 市では、様々な相談を行っています、あなたが知っている相談はどれですか。
(はいいくつでも)

<図表8 - 18> 市が行っている相談の認知状況 (複数回答)



市が行っている相談の認知状況としては、「税金」(39.4%)が4割弱で最も高くなっている。次いで、「法律」(34.6%)、「母子・福祉」(34.1%)、「年金・雇用保険・労働条件相談」(32.7%)の3項目が3割前半半で並び、「健康・栄養・歯」(28.4%)が約3割となっている。このほか、「子育て」(18.9%)と「相続・遺言等暮らしの手続」(18.6%)が約2割である。なお、「どの相談も知らなかった」(18.3%)も約2割ある。

【性別】

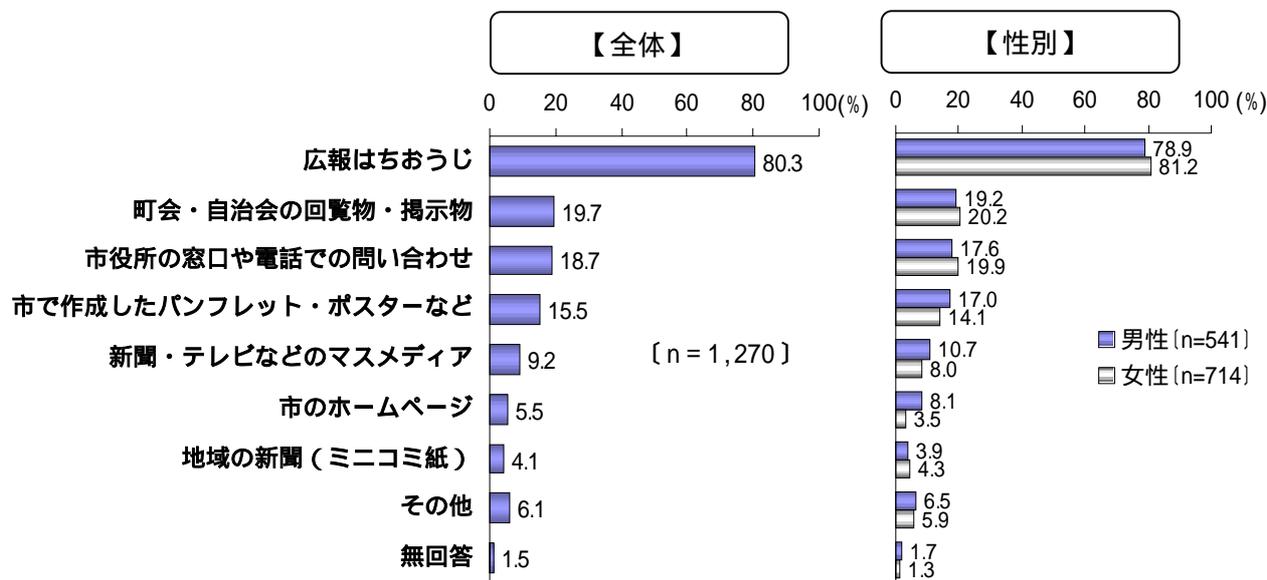
女性の方が男性を大きく上回るものが多く、10ポイント以上差が開いているものを順に列挙すると、「母子・福祉」の16ポイント、「健康・栄養・歯」の14ポイント、「子育て」の12ポイント、「心の相談」の11ポイント、「女性のための相談・カウンセリング」の10ポイントなどがある。逆に、男性は「どの相談も知らなかった」で14ポイント高くなっている。(図表8 - 18)

「広報はちおうじ」が8割を超え突出

(問56で、「1」から「18」のいずれかをお答えの方に)

問56 - 1 あなたは、市で行っている相談をどのようにして知りましたか。(はいくつでも)

<図表8 - 19> 市が行っている相談の認知媒体(複数回答)



問56で、市が行っている何らかの相談を知っていると回答した人に、その相談の認知媒体を聞いた。その結果、「広報はちおうじ」(80.3%)が8割を超え突出している。これに続く、「町会・自治会の回覧物・掲示物」(19.7%)と「市役所の窓口や電話での問い合わせ」(18.7%)は2割弱となっている。

【性別】

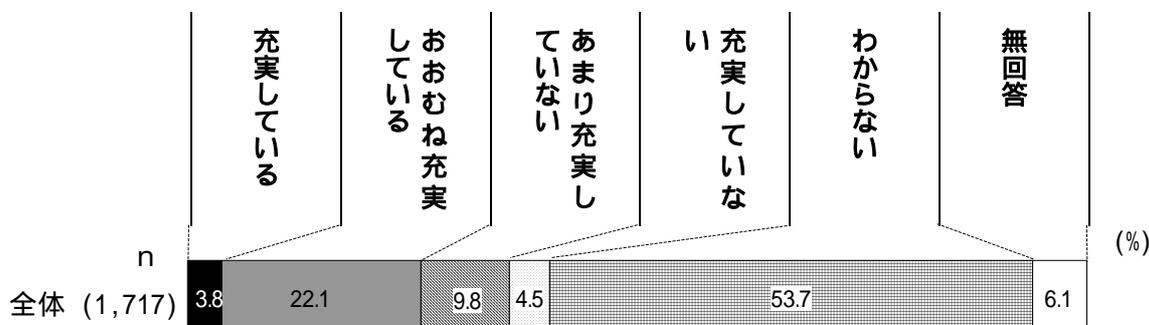
最も開きがみられるのは、「市のホームページ」で男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。(図表8 - 19)

8 - 14 市の相談窓口の充実度

《充実している》が2割台半ばを超える。一方の《充実していない》は1割台半ば近く

問57 あなたは、市の相談窓口が充実していると思いますか。(は1つだけ)

<図表8 - 20> 市の相談窓口の充実度



市の相談窓口が「充実している」(3.8%)は少数にとどまるものの、「おおむね充実している」(22.1%)は2割を超え、これら両者を合算すると、《充実している》(25.9%)で2割台半ばを超える。一方、「あまり充実していない」(9.8%)と「充実していない」(4.5%)を合算した、《充実していない》(14.3%)は1割台半ばに近い。なお、「わからない」(53.7%)が過半数となっている。(図表8 - 20)

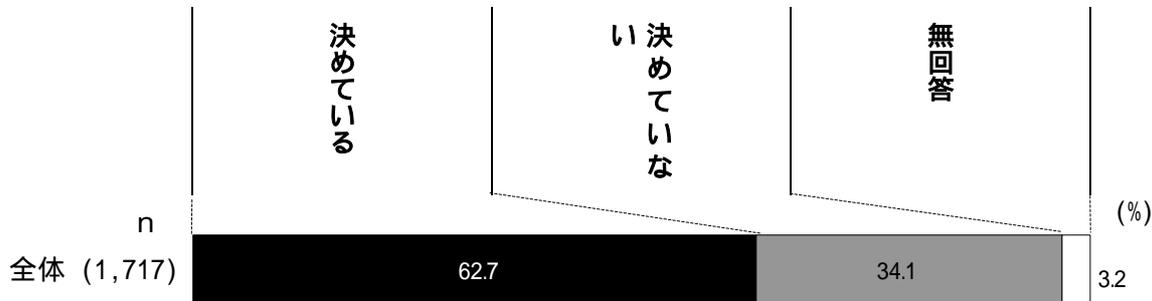
8 - 15 かかりつけの医療機関の有無

施策No - 18 医療体制づくり：かかりつけ医を決めている市民の割合

「決めている」が6割を超え多い

問58 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(は1つだけ)

<図表8 - 21> かかりつけの医療機関の有無



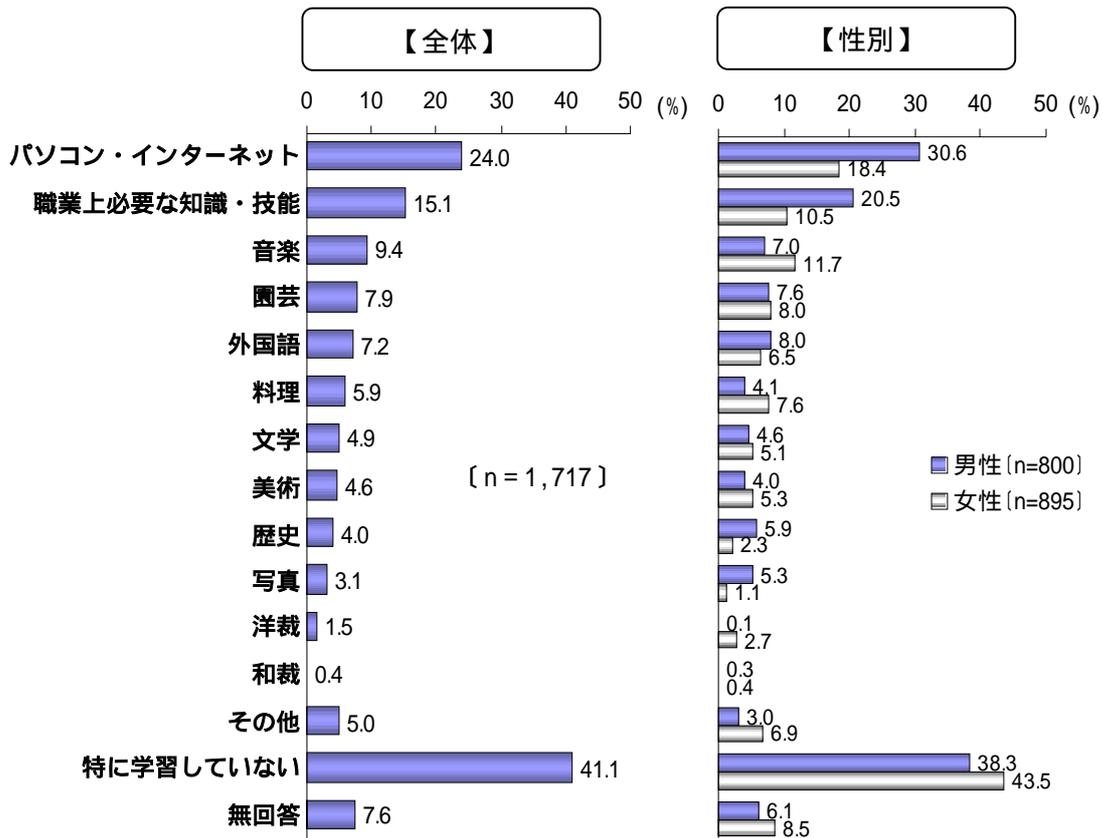
かかりつけの医療機関を「決めている」(62.7%)は6割を超え、「決めていない」(34.1%)を上回る。(図表8 - 21)

施策No - 22 生涯学習の推進：生涯学習活動をしている市民の割合

「パソコン・インターネット」がほぼ4人に1人で最も高いが、多くは「特に学習していない」

問59 あなたがこの1年間に取り組んだ学習活動はどれですか。(はいくつでも)

< 図表8 - 22 > 1年間に取り組んだ学習活動(複数回答)



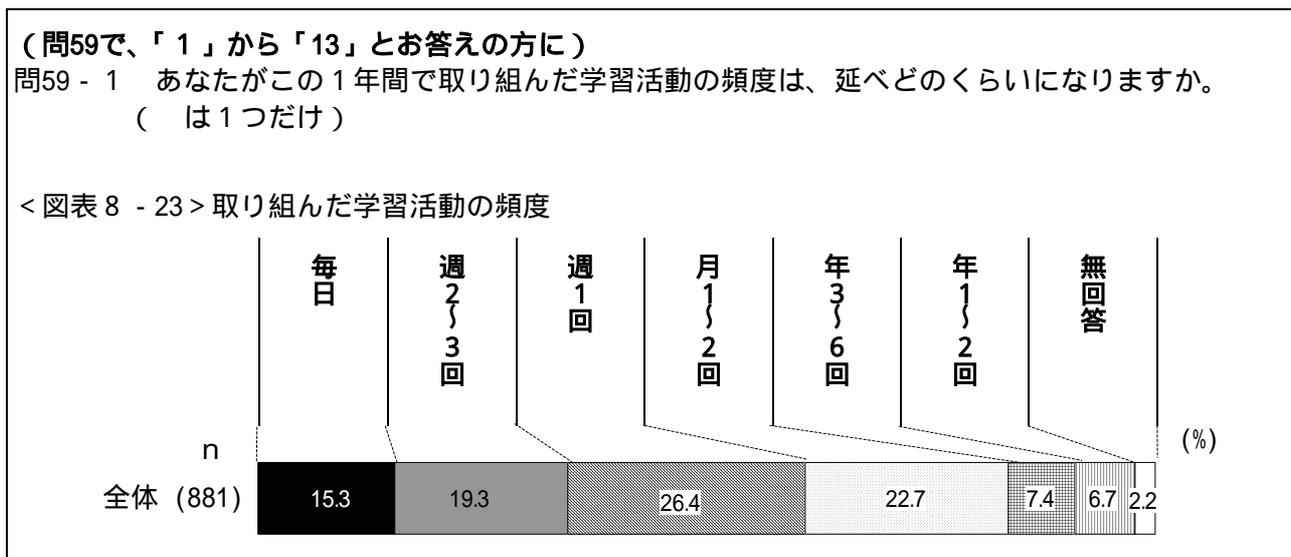
この1年間に取り組んだ学習活動としては、「パソコン・インターネット」(24.0%)がほぼ4人に1人で最も高くなっている。続く、「職業上必要な知識・技能」(15.1%)は1割台半ば、「音楽」(9.4%)は1割弱である。だが、「特に学習していない」(41.1%)が4割を超え高率である。

【性別】

男性の方が女性よりも高いものに、「パソコン・インターネット」の12ポイント、「職業上必要な知識・技能」の10ポイント差などがある。逆に、女性は「音楽」で5ポイント高率である。また、「特に学習していない」でも女性は5ポイント高くなっている。(図表8 - 22)

8 - 17 取り組んだ学習活動の頻度

「週1回」が2割台半ばを超え最も多く、「月1～2回」が続く

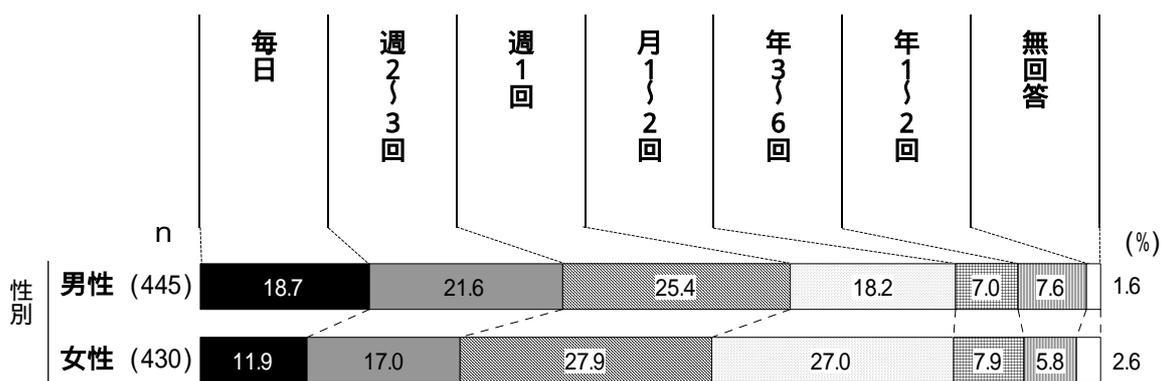


問59で、何らかの学習活動を行った人に、その頻度を聞いた。その結果、「週1回」(26.4%)が2割台半ばを超え最も高く、「月1～2回」(22.7%)が続く。(図表8-23)

【性別】

「毎日」は男性の方が女性よりも7ポイント高く、「週2～3回」でも5ポイント高い。女性は、「月1～2回」で9ポイント上回る。(図表8-24)

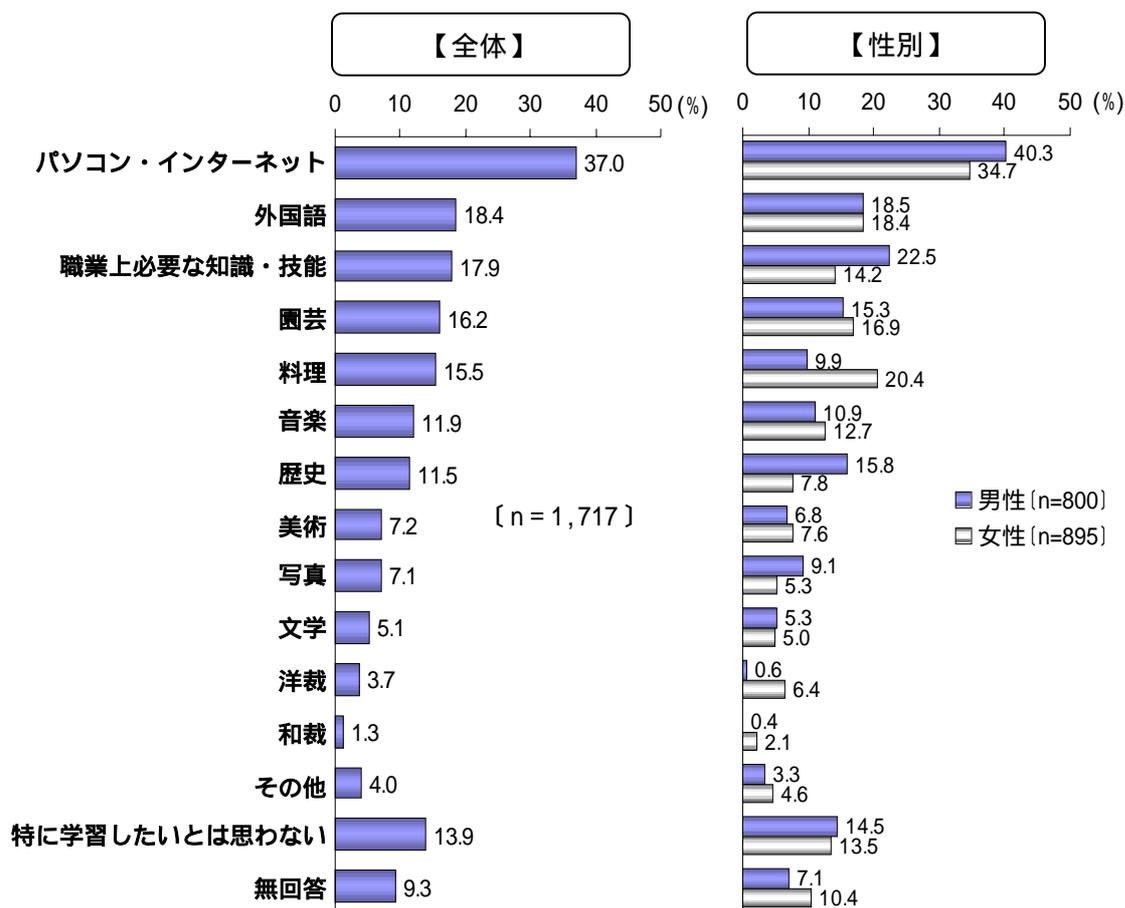
< 図表 8 - 24 > 性別



「パソコン・インターネット」が約4割でトップ

問60 あなたが今後取り組みたいと思っている学習活動はどれですか（はいくつでも）

<図表8 - 25> 今後取り組みたい学習活動（複数回答）



今後取り組みたい学習活動としては、「パソコン・インターネット」(37.0%)が約4割で最も高くなっている。この後には、「外国語」(18.4%)、「職業上必要な知識・技能」(17.9%)、「園芸」(16.2%)、「料理」(15.5%)の4項目が1割台後半で、「音楽」(11.9%)と「歴史」(11.5%)が1割台前半である。なお、「特に学習したいとは思わない」(13.9%)も1割台前半である。

【性別】

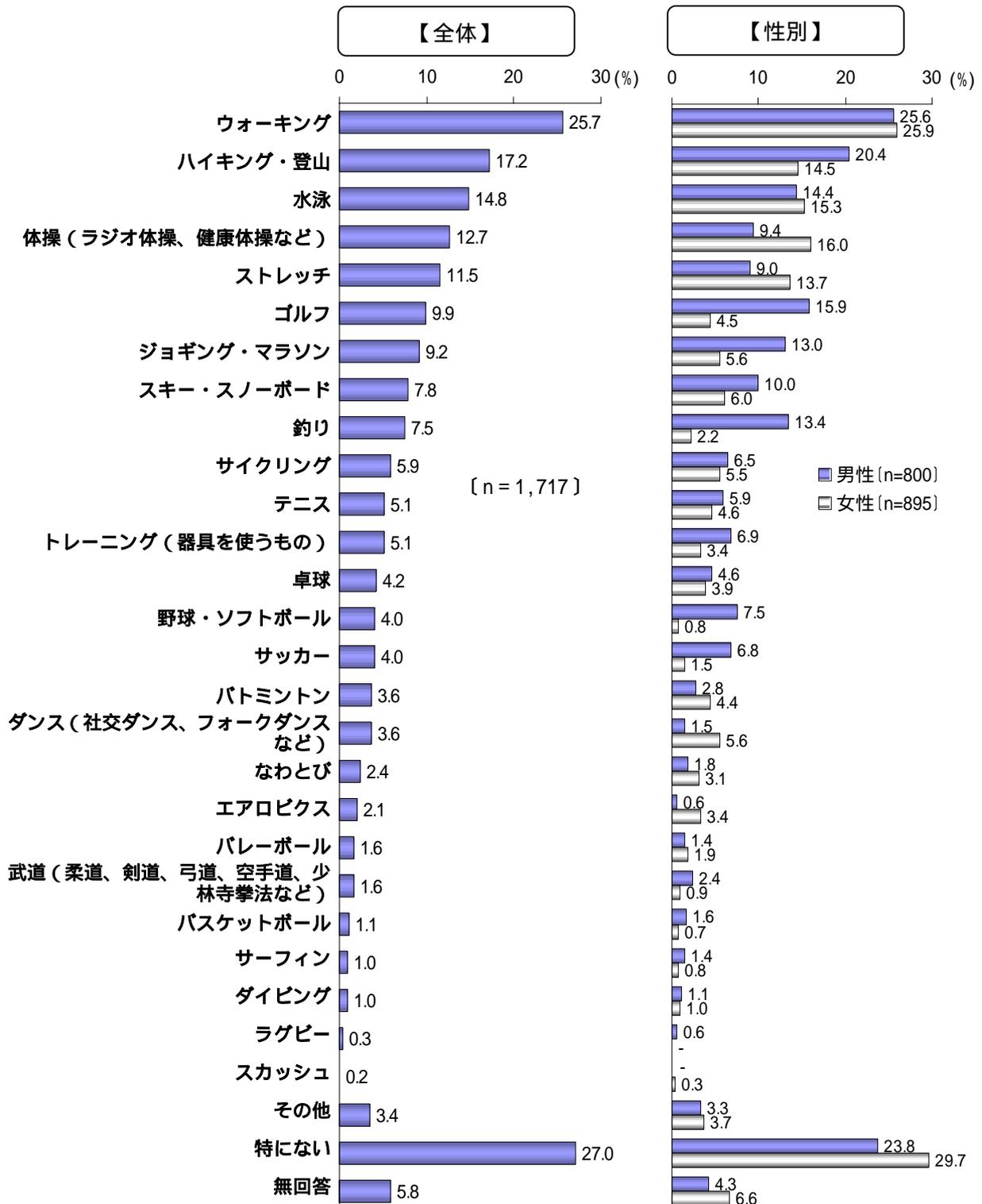
男性の方が女性よりも高いものには、「職業上必要な知識・技能」と「歴史」の8ポイント、「パソコン・インターネット」の6ポイント差などがある。逆に、女性は「料理」で11ポイント、「洋裁」で6ポイント男性を上回る。(図表8 - 25)

施策No - 23 生涯スポーツの推進：週1回以上スポーツをする成人の割合

「ウォーキング」が4人に1人で最も高率。しかし、「特にない」が2割台半ばを超える

問61 あなたがこの1年間に行ったスポーツはどれですか。(はいくつでも)

<図表8 - 26> 1年間に行ったスポーツの内容(複数回答)



1年間に行ったスポーツの内容としては、「ウォーキング」(25.7%)が4人に1人で最も高く、「ハイキング・登山」(17.2%)が続く。次いで、「水泳」(14.8%)、「体操(ラジオ体操、健康体操など)」(12.7%)、「ストレッチ」(11.5%)が1割台前半で、「ゴルフ」(9.9%)と「ジョギング・マラソン」(9.2%)が1割弱となっている。なお、「特にない」(27.0%)が2割台半ばを超え高率である。

【性別】

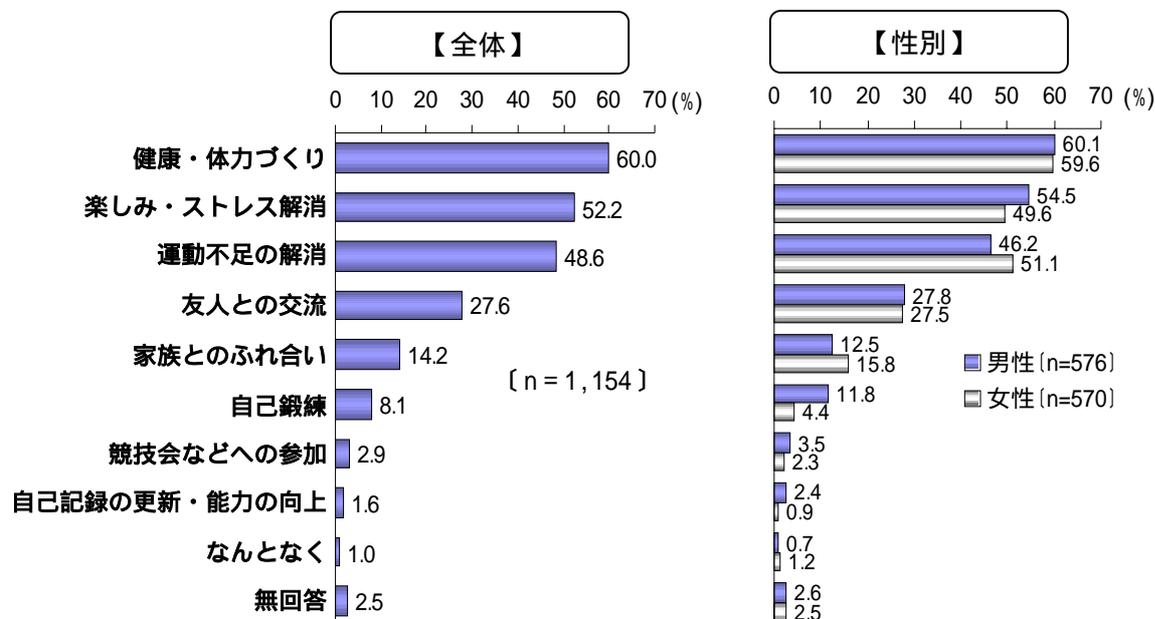
男性の方が女性よりも高いものには、「釣り」と「ゴルフ」の11ポイント、「ジョギング・マラソン」と「野球・ソフトボール」の7ポイント、「ハイキング・登山」の6ポイント、「サッカー」の5ポイント差などがある。逆に、女性の方が高いのは、「体操(ラジオ体操、健康体操など)」の7ポイント、「ストレッチ」の5ポイントなどである。また、「特にない」でも女性は6ポイント上回っている。(図表8 - 26)

「健康・体力づくり」が6割でトップ

(問61で、「1」から「27」のいずれかをお答えの方に)

問61 - 1 あなたがこの1年間にスポーツをしたのはどのような理由ですか。(は3つまで)

< 図表 8 - 27 > スポーツをした理由 (複数回答)



問61で、何らかのスポーツを行ったと回答した人に、その行った理由を聞いた。その結果、「健康・体力づくり」(60.0%)が6割で最も高く、続く、「楽しみ・ストレス解消」(52.2%)と「運動不足の解消」(48.6%)が半数前後となっている。このほか、「友人との交流」(27.6%)が2割台半ばを超え、「家族とのふれ合い」(14.2%)が1割台半ばに近い。

【性別】

男性は「自己鍛練」と「楽しみ・ストレス解消」で女性を上回り、前者で7ポイント、後者で5ポイントの差となっている。逆に、女性は「運動不足の解消」で5ポイント高い。(図表 8 - 27)

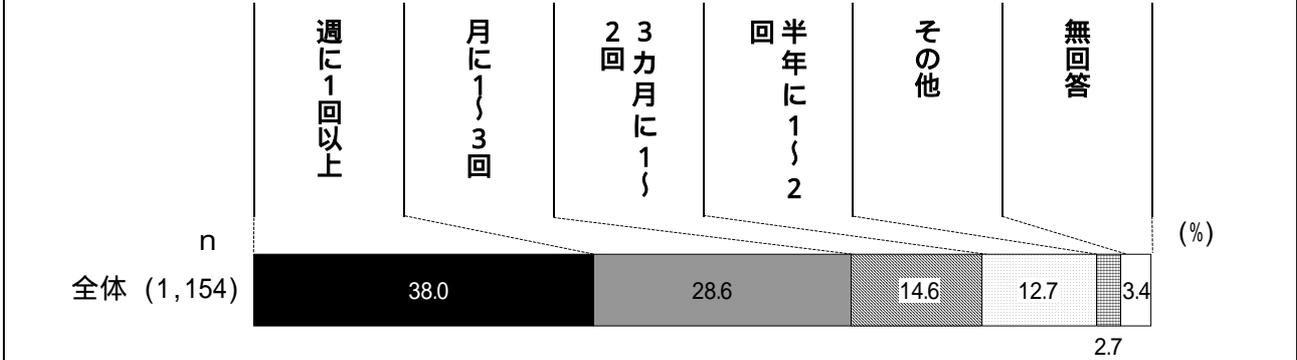
8 - 21 1年間にいったスポーツの頻度

「週に1回以上」が約4割で最も高い

(問61で、「1」から「27」のいずれかをお答えの方に)

問61 - 2 あなたがこの1年間にスポーツを行った回数はどのくらいですか。(は1つだけ)

<図表8 - 28> 1年間にいったスポーツの頻度

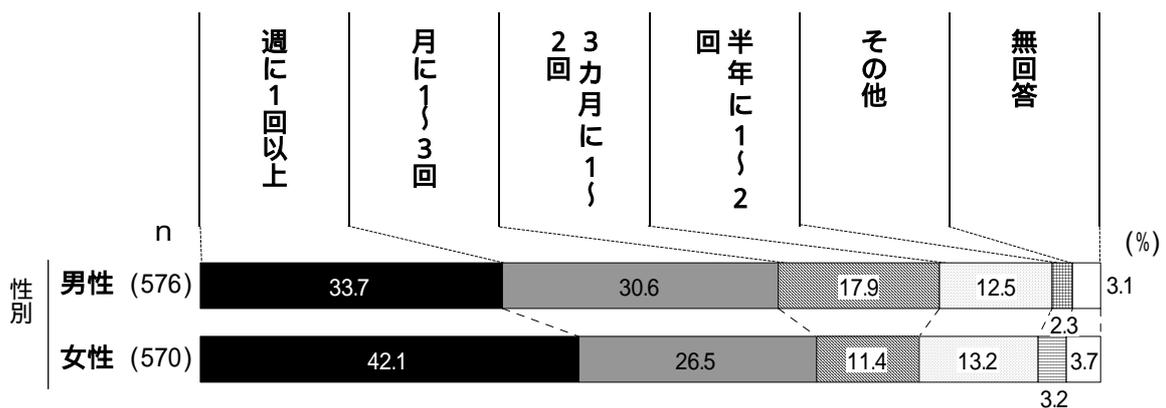


問61で、何らかのスポーツを行ったと回答した人に、その頻度を聞いた。その結果、「週に1回以上」(38.0%)が約4割で最も高く、次いで、「月に1~3回」(28.6%)が約3割となっている。(図表8 - 28)

【性別】

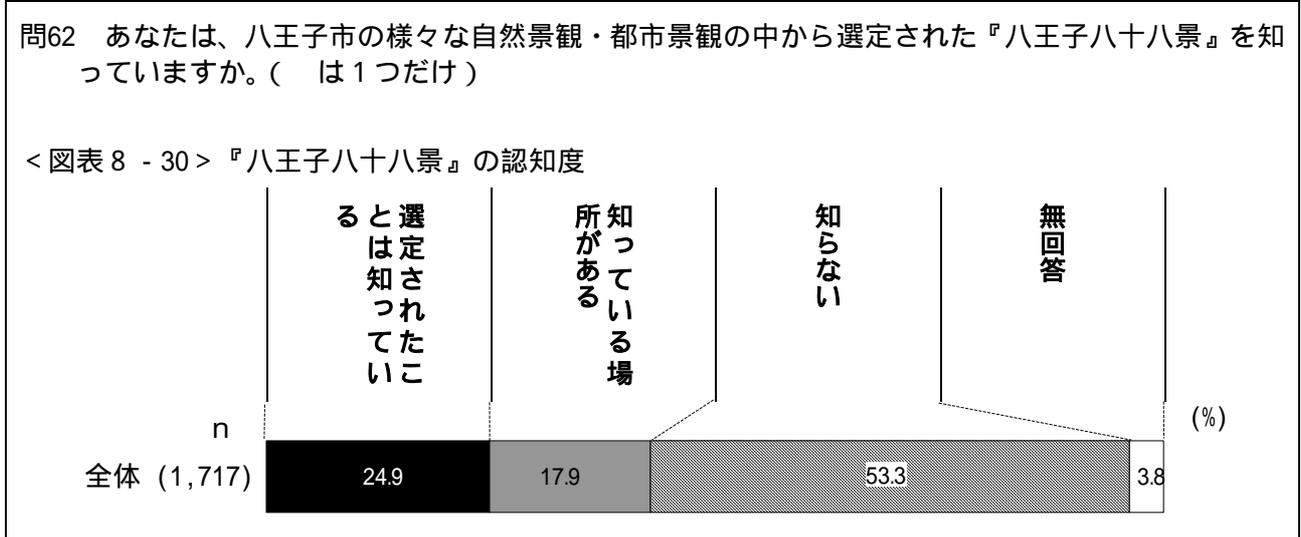
「週に1回以上」は女性の方が男性よりも8ポイント高くなっているが、「3カ月に1~2回」では男性の方が女性よりも7ポイント上回る。(図表8 - 29)

<図表8 - 29> 性別



施策No - 27 計画的なまちづくり：八王子の景観への市民評価度

《知っている》が4割を超えるも、「知らない」が半数を超え上回る

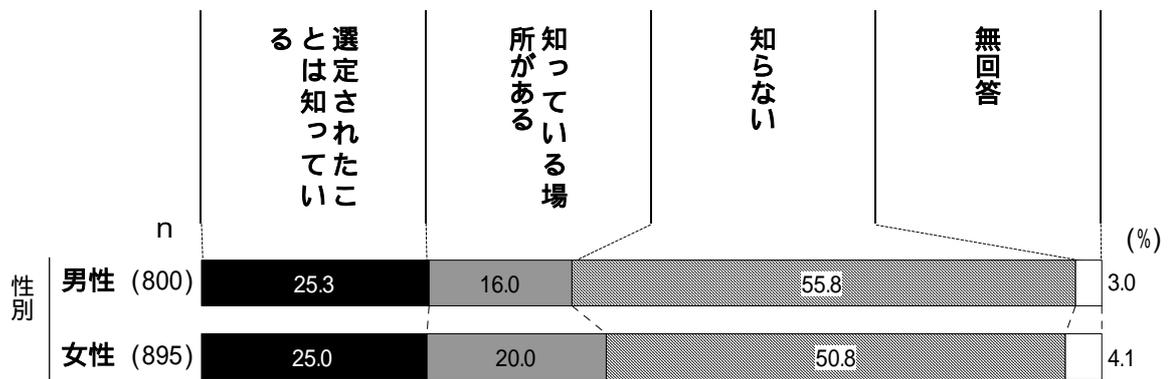


『八王子八十八景』について、「選定されたことは知っている」(24.9%)はほぼ4人に1人、「知っている場所がある」(17.9%)が約2割で、これらを合わせると《知っている》(42.8%)は4割を超える。しかしながら、「知らない」(53.3%)が半数を超え高くなっている。(図表8 - 30)

【性別】

最も差がみられるのは、「知らない」で男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。(図表8 - 31)

<図表8 - 31> 性別

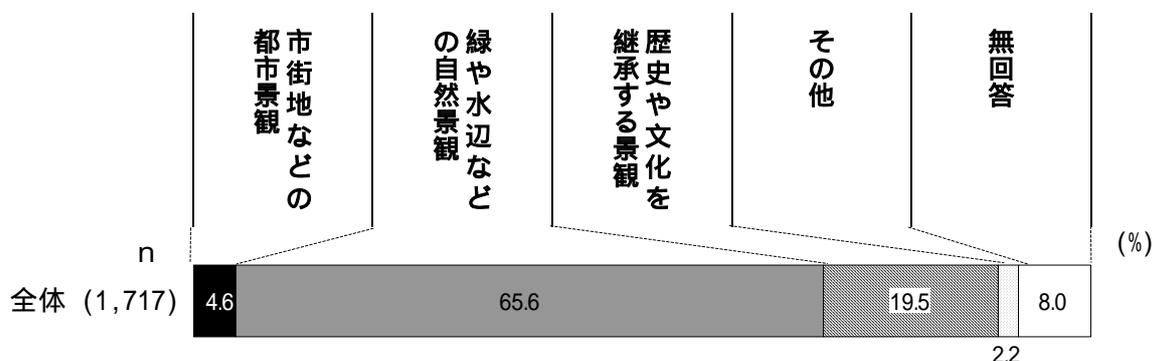


8 - 23 魅力的だと感じる景観

「緑や水辺などの自然景観」がほぼ3人に2人で最も高い

問63 あなたは、様々なまちの景観のうち、魅力的だと感じる景観はどのような景観ですか。(は1つだけ)

<図表8 - 32> 魅力的だと感じる景観



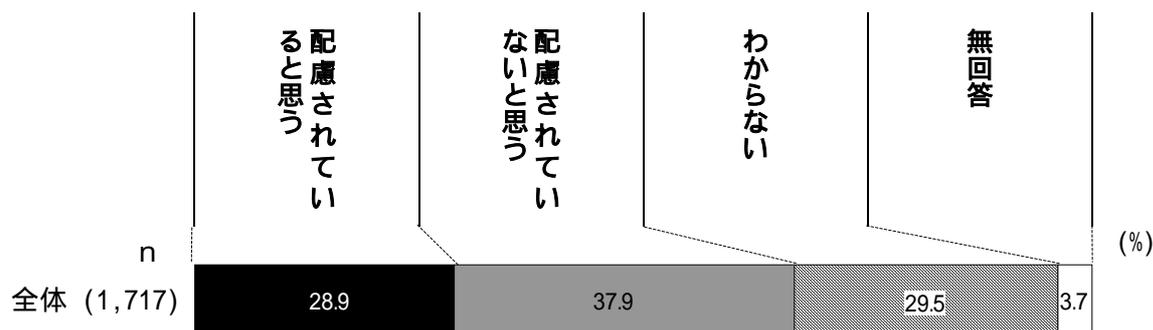
魅力的だと感じる景観としては、「緑や水辺などの自然景観」(65.6%)がほぼ3人に2人で最も高く、次いで、「歴史や文化を継承する景観」(19.5%)が2割弱となっている。(図表8 - 32)

8 - 24 居住地域の景観への配慮の有無

「配慮されていると思う」の3割弱に対し、「配慮されていないと思う」は3割台半ばを超える

問64 あなたのお住まいの地域は、景観に配慮されていると思いますか。(は1つだけ)

<図表8 - 33> 居住地域の景観への配慮の有無



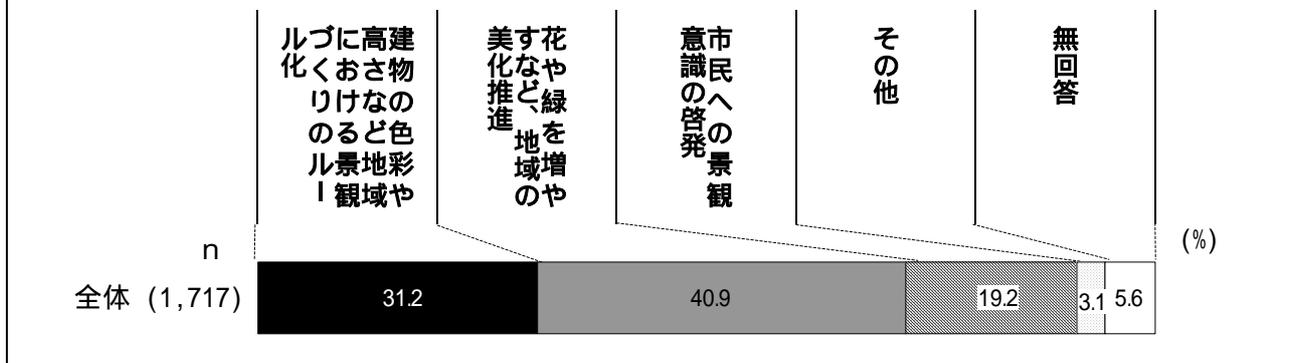
居住地域の景観が「配慮されていると思う」(28.9%)は3割弱だが、「配慮されていないと思う」(37.9%)は3割台半ばを超え、こちらの方が高くなっている。なお、「わからない」(29.5%)との回答も3割弱ある。(図表8 - 33)

8 - 25 景観づくりに必要なこと

「花や緑を増やすなど、地域の美化推進」が4割を超え最も高い

問65 あなたは、景観づくりのためにどのようなことが必要であると思いますか。(は1つだけ)

<図表8 - 34> 景観づくりに必要なこと

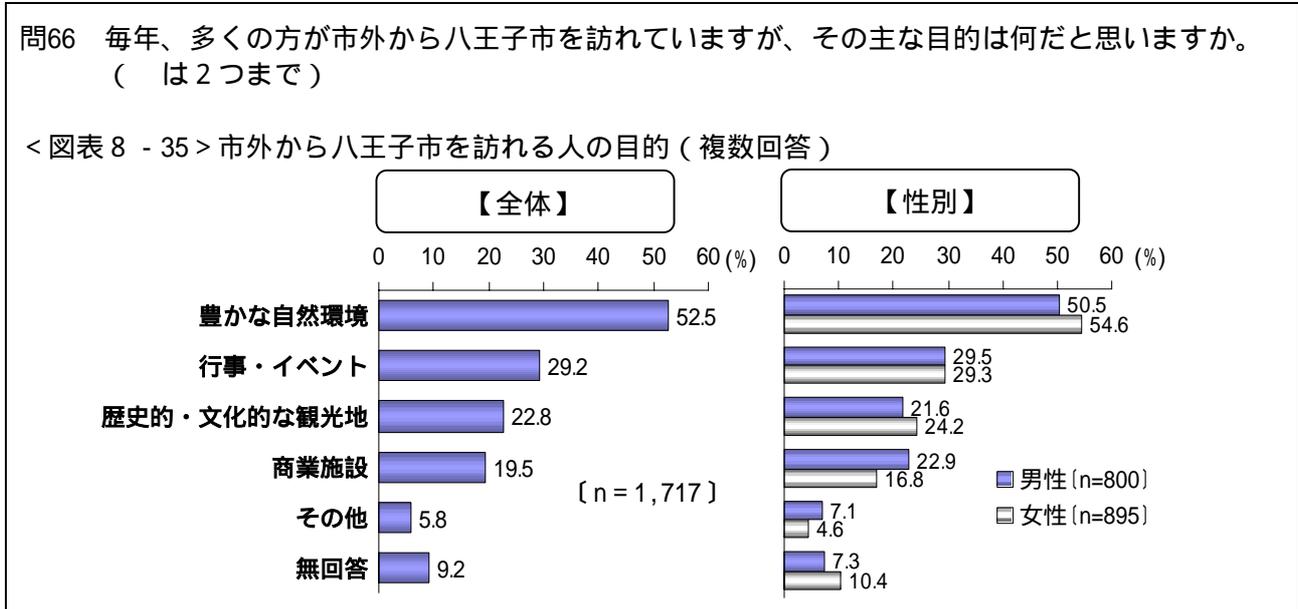


景観づくりに必要なこととしては、「花や緑を増やすなど、地域の美化推進」(40.9%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「建物の色彩や高さなど地域における景観づくりのルール化」(31.2%)が3割を超える。また、「市民への景観意識の啓発」(19.2%)は2割弱である。(図表8 - 34)

8 - 26 市外から八王子市を訪れる人の目的

施策No - 33 体制づくりと人材育成：にぎわいと活力があるまちとを感じる市民の割合

「豊かな自然環境」が半数を超え最も高い



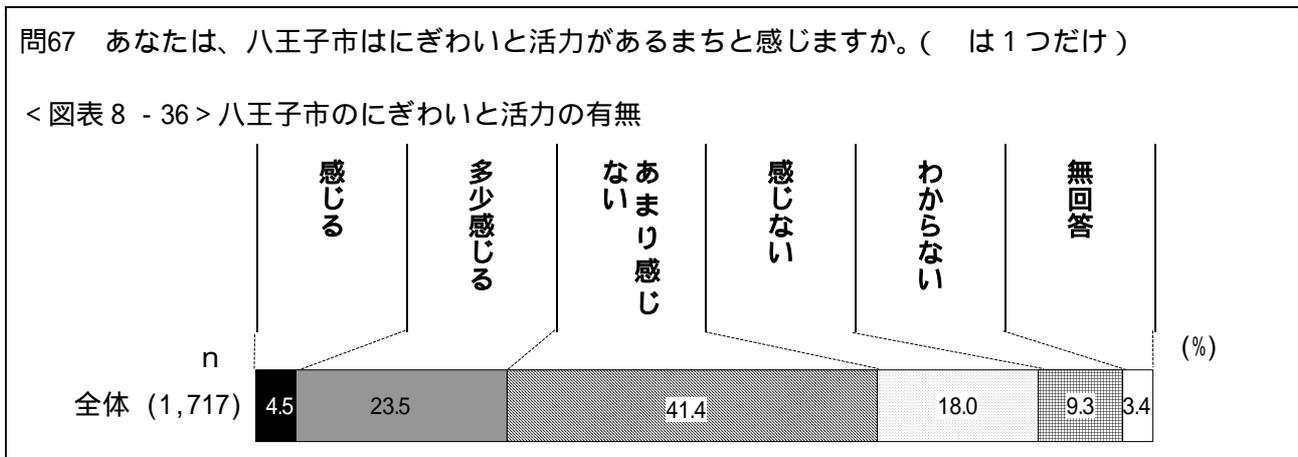
市外から本市を訪れる人の主な目的を推測してもらったところ、「豊かな自然環境」(52.5%)が半数を超えて最も高くなっている。続く、「行事・イベント」(29.2%)は3割弱、「歴史的・文化的な観光地」(22.8%)は2割強である。

【性別】

最も差がみられるのは、「商業施設」で男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。(図表8 - 35)

8 - 27 八王子市のにぎわいと活力の有無

《感じる》は約3割。一方の《感じない》が6割弱が多い



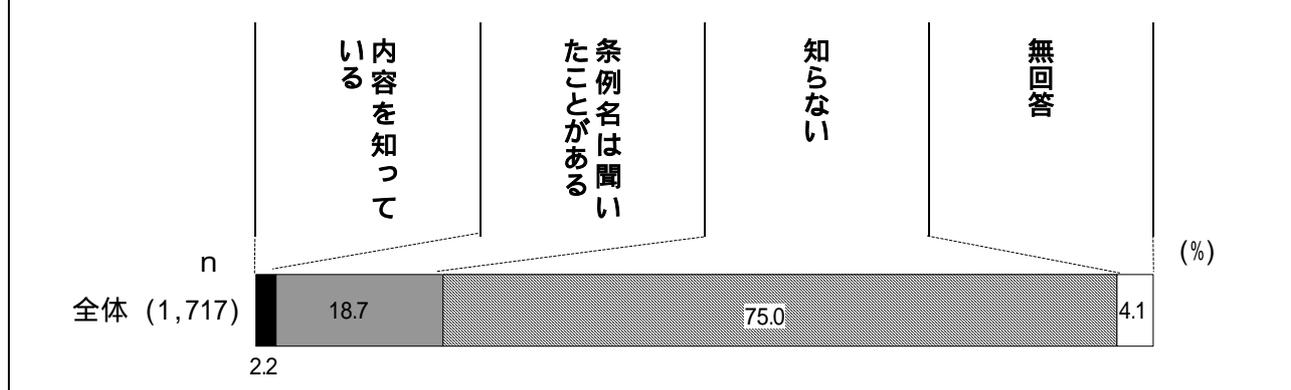
本市のにぎわいと活力を「感じる」(4.5%)は少数にとどまり、「多少感じる」(23.5%)と合算すると、《感じる》(28.0%)は約3割となる。一方、「あまり感じない」(41.4%)と「感じない」(18.0%)を合算すると、《感じない》(59.4%)は6割弱と《感じる》を上回る。(図表8 - 36)

施策No - 38 環境保全体制の確立：環境に関心がある市民の割合

《認知度は》2割強。4人に3人が「知らない」と回答

問68 あなたは、市が環境問題を解決するために、市と市民の皆さん・事業者とが一緒になって環境を保全し、回復し、創造していくことに取り組めるよう制定した「八王子市環境基本条例」(平成13年12月28日公布)を知っていますか。(は1つだけ)

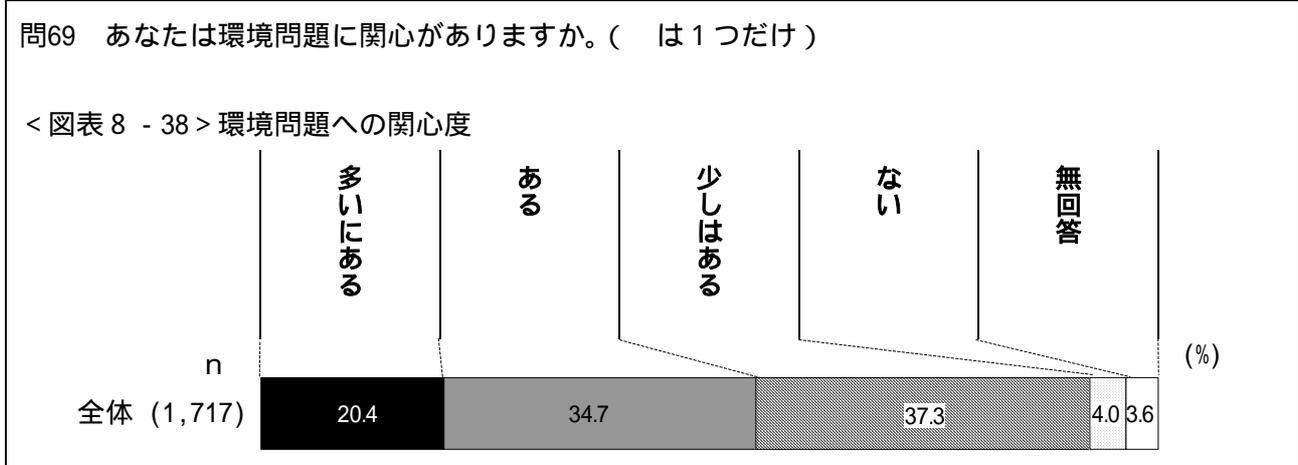
<図表8 - 37> 「八王子市環境基本条例」の認知度



「八王子市環境基本条例」の「内容を知っている」(2.2%)は少数にとどまり、「条例名は聞いたことがある」(18.7%)は約2割となっている。これら両者を合算すると、《認知度》(20.9%)は2割強である。逆に、「知らない」(75.0%)は4人に3人である。(図表8 - 37)

8 - 29 環境問題への関心度

《ある》は9割を超え大多数を占める

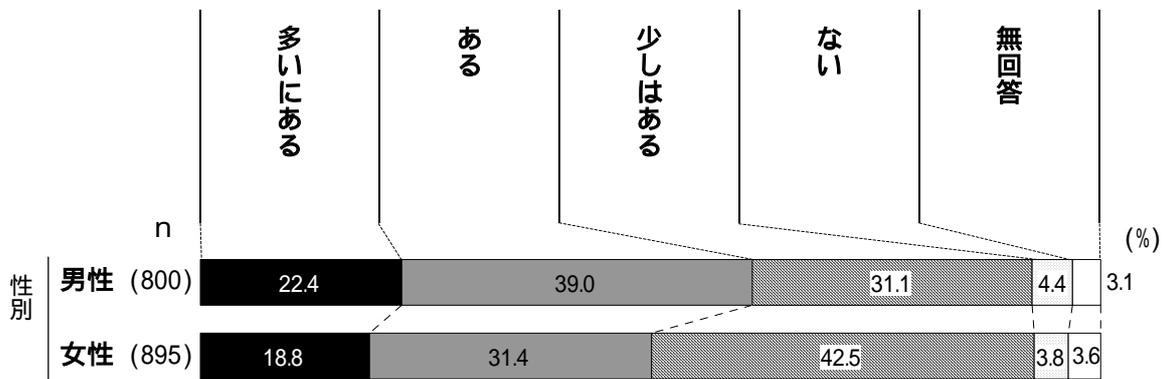


環境問題への関心が「多にある」(20.4%)は2割を超え、3割台半ば前後の「ある」(34.7%)と「少しはある」(37.3%)までを合算すると、《ある》(92.4%)は9割を超え大多数を占める。(図表8 - 38)

【性別】

「多にある」は男性が女性を若干上回り、「ある」でも男性が8ポイント上回る。逆に、女性は「少しはある」で11ポイント高率である。(図表8 - 39)

<図表8 - 39> 性別

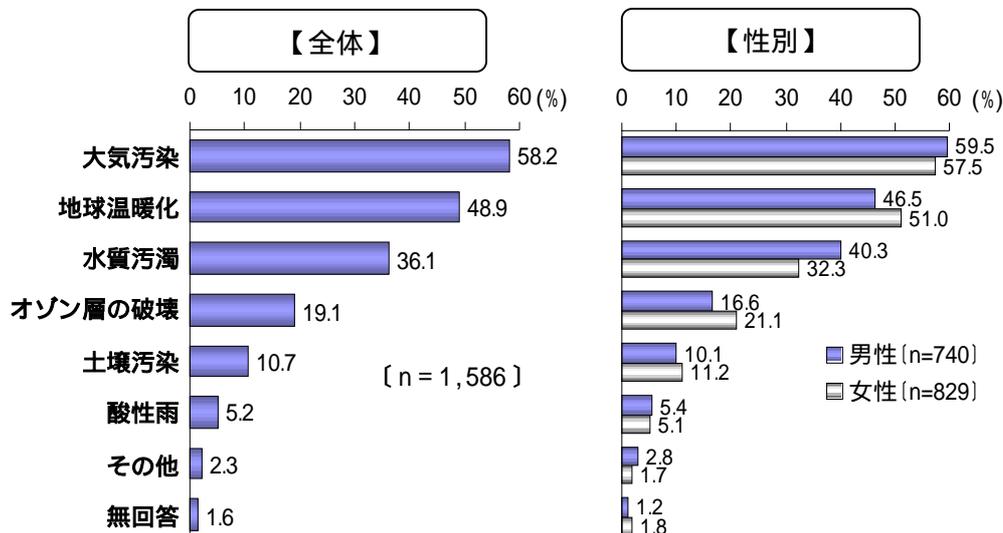


「大気汚染」が約6割でトップ。続く「地球温暖化」は半数に近い

(問69で、「1」から「3」のいずれかをお答えの方に)

問69 - 1 どのような環境問題に関心がありますか。(は2つまで)

< 図表 8 - 40 > 関心のある環境問題 (複数回答)



関心のある環境問題としては、「大気汚染」(58.2%)が約6割で最も高率で、「地球温暖化」(48.9%)はほぼ半数で続く。このほか、「水質汚濁」(36.1%)が3割台半ばを超え、「オゾン層の破壊」(19.1%)が2割弱となっている。

【性別】

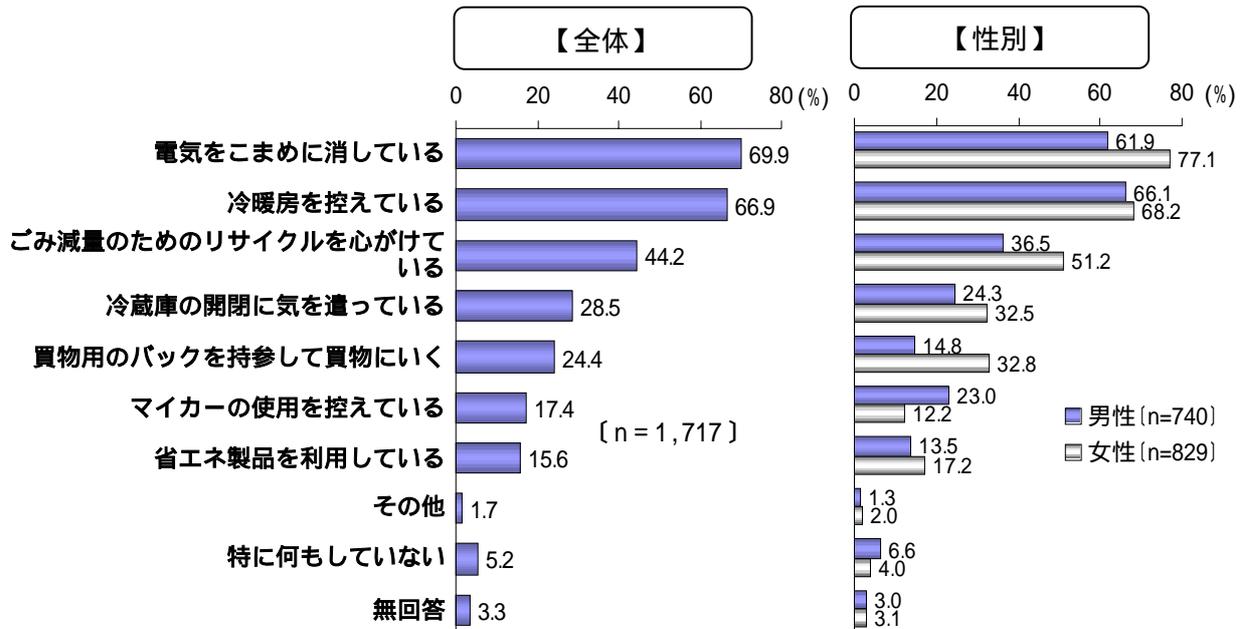
「地球温暖化」と「オゾン層の破壊」は女性の方が男性を5ポイント上回り、逆に、「水質汚濁」は男性の方が8ポイント高率である。(図表8-40)

施策No - 42 資源・エネルギーの有効活用：省エネ・省資源を意識した暮らしを送っている市民の割合

「電気をこまめに消している」と「冷暖房を控えている」が上位2項目

問70 省エネ・省資源のために行っていることはありますか。(はいいくつでも)

<図表8 - 41> 省エネ・省資源のために行っていること(複数回答)



省エネ・省資源のために行っていることとしては、「電気をこまめに消している」(69.9%)が7割弱で最も高く、「冷暖房を控えている」(66.9%)が僅差で続く。このほか、「ごみ減量のためのリサイクルを心がけている」(44.2%)は4割台半ばに近く、「冷蔵庫の開閉に気を遣っている」(28.5%)が約3割、「買物用のバックを持参して買物に行く」(24.4%)がほぼ4人に1人である。

【性別】

女性の方が男性よりも高いものが多く、それらを列挙すると、「買物用のバックを持参して買物に行く」の18ポイント、「電気をこまめに消している」と「ごみ減量のためのリサイクルを心がけている」の15ポイント、「冷蔵庫の開閉に気を遣っている」の8ポイント差などがある。逆に、「マイカーの使用を控えている」は男性が11ポイント上回っている。(図表8 - 41)